



牛玉所殿左手前 絵馬堂

迎春



観音だより



岡山市東区西大寺中3-8-8
TEL(086)942-2058
観音会広報委員会発行
平成26年1月1日

題字カット 木村 喬生

大晦日～元旦 0時～2時 うどん接待

元旦 0時・10時・14時
2・3日 10時・14時 開運初護摩供奉修

1月14日 9時～ おかざりはやし

楽しい会陽行事

2月15日(土) 会 陽
2月16日(日) 後 ま つ り
2月22日(土) 宝 来 春
2月23日(日) 宝来春・稚児行列
3月2日(日) 大 柴 燈 護 摩

足るを知る

住職 坪井 全 広

これも地球温暖化現象でしょ
うか、気象庁が統計を取り始め
て初めての大型台風が、最高
気温が、記録的豪雨が、連
続猛暑日が、日本に大きな竜
巻が頻繁に起こる事をだれが想
像したでしょうか。日本人の心
は四季の中で育まれてきました
が、今や二季だと言われる環境
下で、子供たちの精神構造に影
響を与えないでしょうか。
私たち人間は、本来欲深い意
け者で利己主義者なのかも知れ
ません。人間は楽をするために、
楽しく過ごすために自然界から
エネルギーを得て様々な便利な
物を作り出しました。自分が大
事だから、他人より優位に立つ
ために欲深くなり貧富の差が生
じました。
仏教では煩悩の根源を三つに
分類しています。貪(むさぼり)・
瞋(いかり)・癡(おろか)が
これです。即ち足りる事を知ら
ない欲望であり、自己中心的で
頭に血がのぼった状態であり、
被害者意識が強く本質を知らな
い事です。これを三毒といい、
諸悪の根源です。

しかし、仏教はこれら全てを
否定するものではありません。
煩惱即菩提、むしろこうした精
神的な働きや、物質の存在を尊
重しています。
お釈迦さまは、「我と大地有
情、山川草木悉皆成仏」と、
悟りの境地を説かれています。
ここには、人間も動物も生きと
し生けるもの、更には大自然界
の一本一草に至るまで仏の具現
体であり、自分を含めた万物が
仏様の一部であり、当然不必要
な物は何もありません。全てが
関わり合って相互依存の調和の
とれた世界が浄土であり、密教
の曼荼羅世界です。
お釈迦様から二千五百年。物
質文明では繁栄したもの、こ
の三毒によって人間も、社会も、
国家も、地球さえも苦しんでい
ます。まるで修羅の世界です。
今を生きる私たちの指針とし
て、四求誓願(しぐせいがん)
があります。
一、多くの人の心に寄り添う
二、至らない自分を猛省する
三、自分を謙虚に、心を高める
四、自他の区別を捨て、すべて
を慈しむ
どれも難題ですが、世代を超え
て常に念じなければ、私たちの
子孫の未来は暗いと思います。

永代供養のこと

加藤 祥子

私共は兵庫県宝塚市に住んで
います。墓地は岡山市神崎にあ
って、主に地元に住む夫の弟と
妹夫婦に管理して貰っていました。
数年前に弟が亡くなり、私共
や妹夫婦も高齢となり、墓の管
理をどうするか？が大きな問題
となっていました。
いろいろ考えてみましたが、
墓地を宝塚周辺に移転しても、
子供達は宝塚近辺に住む事はな
く、仮に移転したところで、神
崎と同じ管理は望めないで移
転はあきらめました。
そうした折り、観音院の永代
供養の話を目にし、今年三月お
願ひする事にいたしました。
両親、弟が長年住み、亡くな
った地であり又夫の姉妹が住ん
でいる西大寺、姪の結婚式や法
事でお世話になっている格式あ
る観音院が一番安心です。
私共も元氣なうちは今迄通り
足を運ぶことが出来ます。きつ
と御先祖様にも喜んで頂けるこ
とでしょう。

観音会と観音だより

観音会は今からちょうど二十
五年前の平成元年、観音院の檀
信徒と会陽世話役が一体とな
り、観音院護持発展のため、ひ
いては、社会浄化の一助になる
事を祈念して設立されました。
折しも平成七年には三十三年
ぶりの秘仏ご本尊のご開扉が控
えており、観音会を中心に大行
事が行われた事は記憶に新しい
ところです。
その後、老朽化した堂塔の修
復や、諸所の伝統行事へ積極的
に協力して参りました。
また、役員会の中に委員会を
設け、境内の植樹、行事の用意
や行事後の清掃奉仕等の環境美
化、更に、観音院に係わりのあ
る行事の交通整理等、なくては
ならない存在となっています。
『観音だより』はこの機関誌
として檀信徒の情報交換はもと
より、よき伝統文化を後世に伝
えたいと願ひしています。
会員皆様の更なるご協力を、
お願い致します。

教室御案内

教室	指導	日時
書道	奥田桂峰先生	毎週(火) 子供↓ 大人↓ 19:17 00:00 20:18 00:00
御詠歌	上山泰憲先生	毎週(火) 10時 12時
華道 (華道 高野山)	丸尾照峰先生	月一回 2月、8月除く 曜日不定期

楽しい奉仕あれこれ

冬 うどん接待
春 楠木落葉かき
夏 灯ろう作り
秋 塔婆書き(水まつり)
大障子張り etc.

お気持ちのある方は
TEL 942-2058 観音院

質問コーナー 原稿募集の お願い

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年は午(うま)年、
天馬ベガサス(背に羽の付いた馬)の様に大きく飛躍の年になっ
て欲しいものです。
昨年は農家の方は大変だった事と思います。ウンカの異常発生
と、稲刈り時期に雨が続き稲の転倒で涙を流したことでしょ
う。また伊豆大島では、台風27号の影響で大規模な山崩れが発生、多
くの犠牲者を出しました。台風・竜巻・ゲリラ豪雨と近年日本の
気候が大きく変わった感じがします。
変わったと言えば葬儀です。家族(子供達は都会暮らし)のあ
り方、高齢化社会と時代が目まぐるしく変化し家族葬と称する身
内だけの簡素な葬儀が増えています。近所に居ても亡くなったこ
とを知らなかったと言う事もしばしばです。故人の最後のお別
式(葬儀)、時代の流れとはいえず少し寂しい思いもします。
今年で東日本大震災から3度目の冬を迎えます。狭い仮設住宅で
身を寄せ合い暮らす方・福島原発事故で故郷を追われ避難生活を
余儀なくされた方の心情を考えると胸が締め付けられる思いが
します。今年こそ被災地東北が笑顔で明るく元氣な年になりますよ
う、心からお祈りしています。
『冬来たりなば春遠からじいつかきつと明るく春の陽射しの様に
笑顔が戻る日が来る事と思います。その日を待って頑張りましょう。』

シリーズお寺を支える①

中野北
高橋 章

観音会の役をお引受けしたものの、初めはどの様なお仕事なのかも解らず、前班長の山口雪枝様や皆様に教わり乍ら、お寺の行催事に関するお知らせの文書配布や、年会費、寄金の集金等々で檀家さん宅を訪問させて頂いています。

班長としての七年の間には、牛玉所殿大修復、百八観音霊場開創等大きな事業、行事もありました。

観音院様の檀家として日の浅い私にとっては、いつもお寺様の存在に有難いと思いつつも遠く感じていましたが、行事や会合等に参加させて頂いていることに依り、これまで知らないで過ごしてきた事の多さに驚くばかりです。

牛玉所殿修復基金は、平成二十二年から平成二十八年までの七年間として始まり、残り三年で完了となります。檀家皆様にはどうか一層のお

力添えを重ねてお願いいたしました
と思います。

お正月の初詣は、元旦に西大寺観音院へお詣りする事が恒例となっておりますが、きれいに修復された本堂、牛玉所殿には年々大勢の参拝者で賑やかになり嬉しい限りです。

これからもお蔭様の気持を頂きながら健康でお役目を果たしていけたらと思います。

シリーズお寺を支える②

観音院境内の 清掃奉仕について

行事参拝委員会

真壁 英昭

観音会の皆様におかれましては、お健やかにお過ごしでしょうか。今回は標記に付き私なりの拙文を寄稿いたしました。

私たち観音会役員は観音院の行事等の後片付けとして清掃奉仕に参加しています。すなわち、夜待、水祭り、年末、会陽、後片付け、清掃奉仕に参加するものです。以前は大量のゴミが残されていたましたが最近は大

一も良くなつたのか、ゴミの量は少なくなっています。作業は暑い時、寒い時にも行われますが、ご住職、観音会会長、交通美観委員会長の主導の下、滞りなく整然となされています。広い境内ですが参加役員のご協力でも、清掃が行われ、境内も清浄を取り戻し清掃奉仕に参加した私たち自身の心中も清廉を取り戻した気持ちになります。作業は心身ともに健康でなければなし得ません。仕事も一線を退いた今は出来る限りのボランティアをと、心がけています。平素より健康に留意して年相応に頑張ればとの心境です。信仰に長じた私ではありませんが、寺社の境内山内に入れば何だか神妙な気持ちを感じ得ません。自身や家族の安泰、繁栄等を

観音像身を切る冷氣こりとり場

一夜あけ余いんの残るあとまつり

アレコレソレ通じる仲間同級生

誰じゃったかすぐ出てこない人の顔

河本 富夫



願う等、世俗的で狭い了見を恥じる私ですが、これからも社会の一員として元気で奉仕活動を続けたいものです。

観音会の皆様におかれましては、菩提寺とのお近づきの一道筋として、境内清掃奉仕のご参加をお勧めいたします。観音様とのお縁も一段と身近になり、心持ちも穏やかになるのではと思います。お互いの心中の安らかなるを求め、檀家の心の拠り所たる観音院の永久なるご盛栄を願うものです。

合掌

シリーズ会陽を支える

宝木納めの稚児

高校二年
茂成 美空

私が稚児を始めたのは、小学校六年生の時です。仕事は簡単と言えば会陽で宝木を取った方のお祝の儀式のお手伝いをする事です。きっかけは両親に薦められてなんとなく：でした。が、優しい先輩たちに囲まれて楽しく行うことができました。

しかしながら少し辛いと思うこともありました。それは、部活のバスケットとの両立でした。会陽が近くなると夕方から始まる稚児の練習に部活の後、一息つく暇もなく走ってお寺へかけつけていました。「たまには休みたいなあ」と思うこともありましたが、さぼらずに続けて儀式が成功した時の達成感を得た時「ああ続ける事って大変だけど大切な事なんだ」と大きな自信になりました。

今では、私が稚児の後輩たちをひっぱっていかねければならない立場に来てしまいました。



これからは、誇りを
もってがんばっていき
たいです。

今まで逆の立場だったので、正直、不安な所もあります。でも西大寺の一番大きなこの会陽というお祭りに深く関わることのできる稚児という仕事を与えて頂いている事で、高校生の私が少しでも伝統を守ってゆく助けになれば嬉しい事です。

「絵馬堂」について

西大寺周辺ボランティア
岡崎 健

今年は何の年です。

牛玉所殿左手前の白馬が、新年張り切ってみなさまをお迎えいたします。

いわれについても知って頂き、より身近な絵馬堂としてお詣り下さい。



牛玉所大権現と金毘羅大権現が合祀されている牛玉所殿は、金陵山西大寺の鎮守としてお寺を見護つておられます。社殿に向って左側に小さなお堂があり、中に一對の木彫りの白馬像が奉納されているのをご存知でしょうか。「絵馬堂」と記された額が掲げられています。

古来、白馬は神の乗りものとして、又神のお使い「神馬」として生きた馬が社寺に寄進されておりました。しかし飼育してゆくための手数や費用の面から、代わりに木彫りの馬像が奉納されるようになりました。等身大の白馬像がこれです。(横腹の

菊の御紋にも注目下さい)時代の経過と共に大きな板に馬の絵を描いて木馬代わりに納める風習が広がり「大絵馬」と呼んでいます。更に多くの人々が参詣されるにあたり、それぞれの方の願い事や報謝の為に小型の木額に馬の絵と言葉を記して奉納することが普及し、「小絵馬」が出来ました。後に馬以外の画題も扱われるようになり、十二支(干支)関連の絵馬などが一般化しているのはご存知の通りです。

お堂の側に「祈願絵馬おみくじ納処」が設けられていて、多くの小絵馬が掛けられており、下段には御神籤が結び付けられています。

(表紙写真参照)